



作野 桂子 議員
SAKUNO Keiko

子どもたちの安全を守るため、防災ヘルメットを含めた備えを具体的に検討してほしい。

学校に子どもたちを守る防災の備えを

Q 中学校のトイレは、これまでも子ども議会や中学生との懇談会に加え、生徒からプライバシーや衛生面、臭気に関する声や相談が繰り返し寄せられている。日常の教育環境改善に加え、災害時の利用も踏まえ、今後どのように整備を進めるのか。

A 中学校のトイレは老朽化が進んでいる。今後、中学校全体の整備計画との整合性を図りながら、日常利用と災害時利用の双方に対応できるように、計画的な整備を検討する。

Q 災害時に落下物や飛散物から児童生徒の頭部を守るため、防災ヘルメットなどの備えを検討する考えは。A 防災ヘルメットは、費用や保管、配布・管理体制などの課題から導入していないが、児童生徒の安全性を

高める有効な手段として、先進自治体の事例を参考に調査・研究を進める。



デジタル商品券、本人認証の検証は

Q 今回初めて導入したマイナンバーカードによる本人認証について、利用者からの問い合わせや、費用対効果、利便性、事務負担をどのように検証し、次回以降の制度設計に生かすのか。また、スマートフォンを持たない人も利用できるカード型の仕組みなど、選択肢を設ける考えはあるか。

A 不正防止や公平性、セキュリティを考慮し、マイナンバーカードを本人認証に利用した。一方で、手続きの煩雑さやカードを保有していない人などの課題も認識している。今後は費用対効果、利便性、職員の事務負担を総合的に考慮し、カード型の仕組みも含めて本人認証のあり方を検討する。



坂田 芳郎 議員
SAKATA Yoshio

豊山ブランドにネーミングライツ導入。愛称は「中部大学ちゅとらグラウンド」。

ネーミングライツの収益の方向性は

Q 豊山ブランドのネーミングライツ決定により、パートナー様からの契約金が発生する。こちらの使い道はどのように考えているのか伺う。

A 昨今の厳しい財政状況において、施設の魅力向上と持続可能な維持管理が課題となっていた。

令和8年4月にネーミングライツパートナーの募集を行ったところ、学校法人中部大学様から応募があり、選定の結果、愛称を「中部大学ちゅとらグラウンド」とすることに決定した。

契約期間は令和8年7月25日から令和13年7月24日までの5年間、契約金額は年額110万円である。

なお、今年度の契約金額については、年度途中の開始のため、75万3千円である。

学校法人中部大学様よりお支払い



愛称は中部大学ちゅとらグラウンドに決定

ただく契約金は、当該ブランドの適正な施設運営を維持していくための修繕費用や工事費に活用する。
これまで生涯学習講座や町の文化財PR動画作成などの事業でご協力いただいているが、今回のネーミングライツ導入を契機にさらに連携を深め、地域の活性化につなげてまいりたいと考えている。